



若手検察事務官からのメッセージ



令和7年4月に採用された職員を紹介します。



事務局総務課

私は、令和7年4月に採用され、現在は事務局部門の総務課庶務係として、勤務時間の管理や文書の授受、電話対応などを担当しています。庶務事務は、検察独自の業務ではありませんが、検察庁を支える大切な仕事の1つであり、根拠となる法律や規則等について理解を深めながら、日々責任を持って業務に励んでいます。

Q 実際に勤務して感じたことは？

A 私が実際に勤務をして感じたのは、職場の働きやすさです。分からないことがあれば気軽に相談・質問しやすい環境であることに加え、研修も充実しているため、安心して働くことができています。また、ワークライフバランスに関する様々な取組が行われており、休暇も取得しやすい雰囲気があります。さらに、何よりも検察庁には魅力的な人が多く、大変なことがあっても、この方々だったら乗り越えられると思えるような職場だと感じています。

検察事務官を目指している方や、少しでも検察庁に興味をお持ちの方がいらっしゃいましたら、業務説明会等にご参加いただき、実際の職場の雰囲気などを肌で感じてもらえたらと思います！

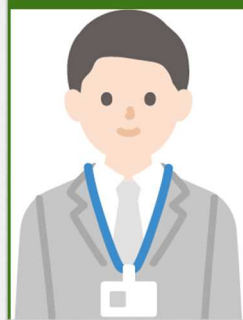
私は、令和7年4月に採用され、現在は会計課の主計係で歳入の管理や旅費等の支出事務、共済関係等の業務を担当しています。特に、旅費等の支出事務については、それぞれの期限に注意しながら、金額や口座情報に誤りがないか確認し、正確な処理を心掛けています。そして、全体の業務を通じて日々の積み重ねが形になっていると感じたときにやりがいを感じます。

Q 職場の雰囲気は？

A 職場の雰囲気は、穏やかで落ち着いていながらも明るさや活気を感じられる環境です。分からないことはすぐに相談できる雰囲気があり、丁寧に教えてくださるので安心して業務に取り組みます。日々の業務を通して少しずつできることが増えていく中で、職場の温かさや協力体制が身近に感じられ、働きやすさを実感しています。



事務局会計課



検務担当

令和7年4月に採用され、現在は検務官室で徴収係を担当しています。徴収係の主な仕事は、罰金や科料といった「財産刑」の執行に関する事務です。罰金などを納付するための書類作成やシステムへの入力、未納者への督促や調査など刑事手続きの最終段階を担っております。

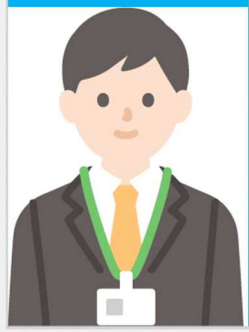
扱う徴収金は1件ごとに内容が異なるため、正確さとスピード感の両方が求められますので、丁寧かつ迅速に行うことを心がけています。ときには未納者の所在が分からず、長期間にわたって調査を続けることもあり、根気が必要な仕事です。

Q 仕事でやりがいを感じる時は？

A 自分が対応していた案件が無事に納付に至ったときや、複雑な事案を最後までやりきったときには大きな達成感があります。また電話などでのやりとりを通じて、相手の状況を丁寧に聞き取りしながら最適な対応を考える中で「人の立場に寄り添う大切さ」も実感します。

普段は地味に見える仕事かもしれませんが、ひとつひとつの手続きが「法の適正な執行」に繋がっており、社会の安心と信頼を支えているという誇りをもって日々の業務にあたっています。





検務担当

私は、令和7年4月に採用され、検務官室事件係として勤務しています。主な業務は、送致されてきた事件の受理や、処分が決定した事件の処理等です。捜査や裁判のために、被疑者・被告人の権利を制限する、令状に関する事務の補助も行っています。時間の制約による焦りや、ミスが人権侵害に繋がる緊張感がありますが、周囲の方と協力しながら日々の業務を行っています。

Q 実際に勤務して感じたこと

A 法律の勉強はしてこなかったもので、業務についていけるか不安でした。もちろん都度法律等に従って業務を行いますが、入庁後すぐに長期研修がありますし、周囲の方との相談や日々の業務で少しずつ理解が進むので、問題なく勤務できています。配置される部署も様々なので、知識の有無で大きく差が出るということもありません。



支部検務担当

私は、令和7年4月に採用され、事件担当として警察から送致される事件の受理や処理をメインに行っています。1年目は研修がとても充実しており、様々な研修に参加してきました。現在は、近い将来立会事務官になるために研修を行っており、捜査のことについて日々勉強に励んでいます。具体的には、検察官の被疑者取調べに立会い、調書を作成する等を行っています。

検察事務官の仕事内容は人権が絡むため非常に重大な役割を担っており、責任感のある仕事ではありますが、そこにやりがいを感じながら毎日従事しています。

Q 職場の雰囲気は？

A 検察庁は比較的堅いイメージを想像すると思いますが、とても暖かく優しい方たちばかりで働きやすい職場だと思います。分からないことがあれば、自分で調べることも大事ではありますが、気軽に上司、先輩に相談し、教えていただくことがしばしばです。

ただ、異動で人間関係が変わりますし、その省庁によっても雰囲気は変わるので一度説明会に参加し、その職場の雰囲気を肌で感じるのが一番だと思います。実際に私も採用前に異なる庁の説明会に参加し、職場の雰囲気や仕事の内容を聞き、最終的には福島地方検察庁で働くことを決めました。

私は、令和7年4月に採用され、現在は会津若松支部で記録係を担当しています。

記録事務では、事件記録の保管保存や貸出、閲覧謄写請求の対応など、記録に関する幅広い業務を行っています。特に、閲覧謄写請求のあった記録の準備として行うマスキング作業が大変で、上司に確認をもらいながらマスキングをする箇所を考案していきます。作業が大変な分、大量にある記録の閲覧謄写が終了したときには達成感を感じます。

Q 実際に勤務して感じたことは？

A 私は、採用前まで法律関係のことにあまり触れてこなかったもので、法律をたくさん覚える必要があるのかなど不安に思っていました。しかし、実際に勤務してみて、業務にあたって法律は欠かせないものですが、全て覚えなければいけないということはなく、研修の中で法律関係をしっかり勉強することができたり、仕事をする上で上司や周りの方々に聞いて学んだりできるため、非常に学びやすい環境で勤務することができています。



支部検務担当



支部検務担当

私は、令和7年4月に採用され、現在はいわき支部で事件係を担当しています。事件係では、警察などの捜査機関から送られてくる事件記録を点検し受理したり、検察官の捜査が終わった事件を処理したりしています。新聞やニュースで報道されるような大きな事件を受理・処理したときは、社会に貢献していると感じ大きなやりがいを感じます。

最初は分からないことだらけだったのですが、上司や周囲の職員の方々に丁寧に教えていただき、少しずつ仕事を覚えることができました。検察庁は優しい方が多く、他の職場では体験できないような業務も多いので、興味がない方でもぜひ一度、説明会等に参加してみてください！

Q 実際に勤務して感じたことは？

A 私は、検察庁が第一志望だったものの、採用前は検察庁に対して真面目で厳しいという印象を持っていました。しかし、実際に勤務してからは、優しく面白い方が多くメリハリのある職場という印象に変わりました。もちろん業務は真剣に行っているのですが、雑談するときは雑談する、休むときは休むといったメリハリがあり、働きやすいと感じています。